
健やかな寝息

天竺 初音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

健やかな寝息

【Nコード】

N2117B

【作者名】

天埜 初音

【あらすじ】

車内で恋人と一夜を明かした朝、雨音と隣で眠る恋人の寝息に合わせるかのように、私は今朝方の夢を思う……。短編恋愛小説。

車の中から聞く雨は、パラパラいう。
隣で 運転席で、彼は眠っている。

また車で一夜を明かした。住宅街の端っこにある、竹林の道沿い。
ここは常に数台止まっているけど、そこには恋人たちなんて、いないだろう。

私たちのいつもの場所。

さつきまで朝日が明るかったのに、もう再びパラパラいはじめている。彼の寝息は深く、健やかで、私は羨ましい。時々握り返すその手のために、右手を使えないのは幸福だけれど。

……一緒にいるのにこんなに心が頼りのないのは、夢なんて見てしまったからだろう。私は助手席の毛布に埋もれて考える。

「不法投棄禁止」

の看板のオジサンが、竹の合間からこっちを見ている。私は彼に背を向けて、そっと包み込まれるのを待っている。

なんのことはない。

今は連絡のつかないある友人と、ばかをやってた時代の夢を見ただけだ。先生たちに悪態について、笑って、授業をさぼるのが最大の楽しみだった時代。

連絡がつかないといったって、たかが半年。

……それでも、話したいことは有り過ぎるほど溜まった、と思う。
あいつの一番の友人は私だ、と自負していた。周りの友人たちも、それを認めていた風だった。……本人にとってそうでないのなら、

それはただの自負に過ぎなかったのだろう。そのことを、私が知らなかったただけだ。ただ、それだけのこと。

早く、目覚めてくれればいい。そして、ぎゅってしてくれれば……。心から願いはじめている。

あの頃からは想像もしないことだ。車を家みたいにすること。男と一夜を過ごすこと。男の寝顔に、そんな願いをすること。

カラスが低く飛んでいくのが彼越しに見え、パラパラいうのが止まってるのを知った。

雨だれの音だけが、ポツポツ車を鳴らしている。竹林の合間から注ぐ光の具合に虹を思ったが、もし出てるとしてここから見えるはずもない。

……あの頃からは想像もしないことを、きつとあいつもしている。そう思うと、泣きたい気持ちも雨のなごりと昇華した気がした。その時、彼の手が、一瞬強く握った。

今、隣で、彼は眠っている。

（後書き）

読んで下さってありがとうございました。初小説になります。よければ感想お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2117b/>

健やかな寝息

2011年1月19日03時47分発行